⑵　金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額（＊１）	時価（＊１）	差額（＊１）
①　現金及び預金	9,377,399	9,377,399	—
②　投資有価証券及び有価証券	400,000	400,000	—
③　未収附属病院収入	2,940,193		
徴収不能引当金（＊２）	△　100,581		
	2,839,611	2,839,611	—
④　国立大学財務・経営センター債務負担金	(3,489,983)	(3,758,029)	(268,045)
⑤　長期借入金	(16,562,461)	(17,263,100)	(700,639)
⑥　未払金	(6,256,280)	(6,256,280)	—

（＊１）　負債に計上されているものについては、（　）で示しております。

（＊２）　未収附属病院収入に個別に計上している徴収不能引当金を控除しております。

（注１）　金融商品の算定方法

①　現金及び預金、③　未収附属病院収入

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に等しいことから、当該帳簿価額によっております。

なお、未収附属病院収入のうち貸倒懸念債権については、担保又は保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

②　投資有価証券及び有価証券

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に等しいことから、当該帳簿価額によっております。

④　国立大学財務・経営センター負担金、⑤　長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行なった場合に想定される利率で割り引いて算定する方法により算定しております。

⑥　未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

６．賃貸等不動産関係

当法人は秋田県において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

７．資産除去債務関係

ダイオキシン類対策特別措置法の規定に基づく焼却炉のダイオキシン除去義務、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の規定に基づく放射線同位元素等を使用している建物の放射線の除去義務であります。

使用見込期間は34年から49年と見積り、割引率は2.2％を使用して計算しております。

期首残高	9,911千円
時の経過による調整額	107千円
期末残高	10,018千円

Ⅱ．損益計算書関係

１．当期総損失のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するものは、以下のとおりであります。

⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元本償還額に充てた額は、1,050,706千円であります。

当該借入金により取得した資産の減価償却費は、1,025,679千円であります。

当期総損失に与える影響額（差引）は、25,027千円であります。

⑵　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した診療機器資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額は、741千円であります。

⑴⑵による、当期総損失への影響額は25,768千円であります。

Ⅲ．キャッシュ・フロー計算書関係

１．資金期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金勘定	9,377,399千円
定期預金等	△1,600,000千円
資金期末残高	7,777,399千円

２．重要な非資金取引

⑴　ファイナンス・リースによる資産の取得

建物	47,512千円
工具器具備品	55,045千円
合計	102,557千円

⑵　寄附物品の受入

工具器具備品	81,599千円
図書	2,691千円
合計	84,290千円

（減損に係る注記）

１．減損を認識した固定資産

⑴　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額（減損前）	帳簿価額（減損後）
医学部附属病院外来棟	建物	秋田県秋田市	23,796	20,979
工学資源学部４号館	建物	秋田県秋田市	19,027	10,902

⑵　減損の認識に至った経緯

医学部附属病院外来棟、工学資源学部４号館については改修工事のため一部を使用しないという決定を行なったため、減損を認識しております。

⑶　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産毎の内訳

（単位：千円）

用途	種類	損失処理額	損益外処理額
医学部附属病院外来棟	建物	1,232	1,585
工学資源学部４号館	建物	—	8,125

⑷　回収可能サービス価額の算定方法の概要

上記資産は建替に伴う取り壊しであり売却を想定していないため、使用価値相当額を使用しております。